

平成二十一年度

東京都市大学付属中学校 (第三回)

入学試験問題

国語
七の一

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、本文には省略した部分があります。

スポーツであれ、芸事であれ、あるいは物づくりにおいても「A」基礎というものがある。華々しい作品やパフォーマンスに比べて基本はいたって地味だけれども、それは家を建てるときの土台のようなもので、地中に埋もれて人目には触れない。外観を美しく装うことと比べても、基礎を打つには時間も労力も膨大にかかるので、長い時間をかけてじっくり物事を見定めていく気構えが坐っていないと、そのシカへのほどを確かめることができない。

これを文化全体にまで問題を広げてみても、日本の伝統文化には服飾、美術、建築、芸能と諸領域を跨ぎながら、それぞれを共通の文脈で結んでいた身体的な基礎が打たれていたことが見て取れる。直線裁断されたキモノを帯で留める服飾造形は、腰を中心とした立居振舞いの基礎を定めているし、またそれは爪先重心の履物の歩行様式と共通の基礎を持つ身体技法であった。

日本の伝統服が伝える立居振舞いは舞踊の型に明確な輪郭が残されていて、流派によってそれぞれのこだわりはあるけれども、能楽や地唄舞、日本舞踊等においては、膝を曲げ、骨盤を前傾させた立ち方や、左右の足を並行に揃えて揃り足歩行をするような技術がそれぞれに共通の基礎をなしている。腰の沈みを条件とする舞踊の歩行技術は「歩み腰」から、「櫛り腰」「坐り腰」へとそのまま移行する連続性を持ち、地面に着坐するに至ってその安定性は極まる。

日本の伝統文化と呼ばれるもののなかには、純粋に日本独自のものから外来文化の恩恵を少なからず蒙ってきたものまで、学問的にきちんと検証しようとするれば非常に複雑ではある。しかし私たちが「日本的」と感じるどころの一連のスタイルに、身体技法の立場からひとつの特徴を指摘することができるとしたら、地面に対する安定性を重視する「腰の扱い」が挙げられる。動作の基点を骨盤に置き、一定の沈みをともないながら「腰を入れる」ことを重要視する考え方は、多様に展開する身体文化を一定の秩序あるスタイルへとつなぎ留める①文字通りの「()」としてある。

水田の稲作をはじめ、地面に腰を下ろした家事や作業労働を日常としていた我々の先祖にとっては、身体を強化する「腰入れ」の技術を身につけることが、シカツ問題であり、またそうした生きることの必然のなかから、坐の技術が洗練を極め、キモノの着付けや起居様式にも一定の調和が保たれてきたにちがいない。

欧米化した都市生活を営み、もはや生産労働に従事することもなくなったわれわれの感覚からこの国の伝統を眺めると、十九世紀末に「*ジャポニズム」を礼讃した欧米人のように、遠い異文化を再発見したような感覚にさえ陥る。戦後大きく挫折してしまった古来の伝統に、私たちの生活が今一度連続性を取り戻すことが果たしてあるのかどうかを考えると不安ではある。しかし、もう一步基礎を深めていくと、②日本人が固有に蓄積してきた身体技法のなかには、時代を超え地域を超えて、普遍的に共有し得るような身体技法の脈が眠っていて、そこに私たちが今なお立ち返ることのできる身体的な基礎をさらに探っていく。

基本が大事だということは誰もが認めるところだろうが、あらためて「基本とは何か?」と問うてみるとこれがなかなか難しい。実体のある言葉で基本について言うとするならば、まずは自身の体験から省みるのがいいだろう。それは高校の頃にまで遡るのだが、当時所属していた体操クラブの先生から、「基礎ができれば技は一年で覚えられる」と教えられたことが、基本について考えるきっかけだった。その先生というのはオリンピックで金メダルを五つも獲ってきた人だったから、何の疑いもなくその言葉を「B」にしていたが、六種目もある体操競技の「基礎」とはいったい何を意味していて、どうすればそれをきちんと身につけられるのか、ということを理解するにはまだまだ未熟だった。「月面宙返り」や高難度の離れ技にはかり種れてトライしてはみるのだが、基礎ができていないために形にはなっても粗雑な出来栄で、試合ではさらに安定性を欠き、ずいぶん効率的悪い練習をしていたように今になって思う。

結局「基礎とは何か」、見定めることのできないまま体育系の大学に進み、「アンチコウ模索」の練習をくり返していた頃、ソウルオリンピックの代表に二人の高校生が選ばれて、日本中を賑わせるほどのビッグニュースとなった。オリンピックから凱旋帰国した彼らの内一人とは話す機会があつて、世界を見てきて何をいちばん感じたかを尋ねてみると、

「基礎がちがう」

と重い一言が返ってきた。最高難度の技をいくつも駆使して演技を構成している彼らが、世界の一線で戦うために何が必要なのかをあらためて問うたときに、「基礎の補充」ということに立ち返っている様子は私にとっても強い印象を残した。しっかりと基礎を持っている

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

選手は、同じ難度で技を構成しても演技全体に余裕があるので素人目にも印象がちがう。当然ミスをするとも少ないから点数は出る。世界のトップクラスで優位に立つためには、結局「どれだけしつかりした基礎を持っているのか」ということを世界の舞台で突きつけられたことを、年下の天才から教えられ、その言葉の力強さは胸に刺さってしまいに抜けないままである。

倒立の基本をつきつめていくと、立ち姿勢の洗練ということがさらなる基礎としてあるのだが、この段階にまで基礎が深まってくるに体操の専門技術から離れて、人間の運動全体にまで共通の基礎が広がってくる。理屈で考えても「まっすぐ立てなければ、まっすぐな逆立ちなどできない」ということは、シメイのことだが、掌で身体全体を支えるのと比べて、足で立つことはあまりにも日常的でありすぎるのか、高度な運動技能を要するスポーツでは「立ち方の基本」などは案外盲点になってしまいがちである。しかし誰もが日常的に行っている立ち姿勢や坐姿勢の洗練は、骨格の自然に通じた動作を身につけるのには最良の基礎訓練で、殊に日本の芸道の世界では坐を中心とした姿勢の基礎が大事にされてきた。

武芸に限らず日本古来の修行、芸道の世界では姿勢の問題が重要視されていて、それら芸芸の実践のなかでは筋肉に余計な負担をかけない合理的な身構えの基本を「自然体」と呼んでいる。身体の内は誰にも生まれつき具わっているものではあるが、自然本来のはたらしきを有効に活用するためにはそれなりの訓練が必要で、ここに芸道を嗜む人々にとつて「自然体」というものはひとつの到達目標として掲げられた調和の指標となっている。あたかもそれは熟練した板前が、素材本来の持ち味を引き出すために日々修行に明け暮れるように、私たちの身体も、自然本来の持ち味を充分に引き出すことができたときには美的にも機能的にも磨きがかかって限りなく人生を豊かにする可能性を持っている。

自然体を体得するもつとも代表的な訓練には、坐の技術を洗練させることが、ピットウにある。正坐なり、結跏趺坐なり、あるいは立ち姿勢であっても長時間一定の姿勢を保ち続けることの訓練は、日常生活のなかで蓄積した筋肉のこわばりや姿勢の歪みを解消し、自己本来の自然に立ち返る有効な方法になる。周知のとおり、長時間同じ姿勢を保とうとするのであれば不自然な形では身がもたない。

実際にやってみると静止姿勢を正確に保つことは、なまじ動きまわることよりも速かに難しくエネルギーも消費する。さらに緻密に運動を見るならば、正確に静止姿勢を保つことができなければ、正確に動くこともできないはずである。例えば先ほど引き合いに出した「倒立」だが、素人目にはただ「逆立ち」するより、「逆立ち歩き」の方が難しそうに見えるだろう。これが立ち姿勢や坐姿勢になると誰にでもできることなので、そうした日常の動作をわざわざ省みることは少ないけれども、微動だにしないで五分でも姿勢を保つことは容易にできることではない。実際にトライしてみれば「からだの自然」に従って「立つ」「坐る」ということの技術的な奥深さが実感できるだろう。

激しい芸事の動きを学ぶにおいても、無闇やたらに動かさず、まずは坐つて静止することが稽古の基礎に据えられてきたことは、意図的な身体支配から離れようとする態度が基本にあることを示唆する。つまり自分の好き勝手に身体を操ろうとするのではなくて、まずは型に則った動きを覚えることで、自分の内に潜んでいる「からだの自然」に向き合わせようとする考え方がその根底をなしている。

(矢田部英正『美しい日本の身体』より)

※ジャポニズム：特に、フランスで流行した日本趣味。ジャポニスム。

※礼讃：すばらしいと感じて、心からほめたたえること。

※結跏趺坐：足の甲で左右それぞれ反対側のももをおさえる形のすわり方。

問一 ― 線 a、e のカタカナを選字に直しなさい。

問二 この文章は、三つの大きな段落(意味段落)に分けることができます。第二段落と第三段落のはじめの五字をそれぞれぬき出しなさい。

問三 空らん A にあてはまる最もふさわしい言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア われながら イ なんとなく ウ あらかじめ エ さしあたり オ おしなべて

問四 空らん B にあてはまる最もふさわしい言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鶯のみ イ やぶ野 ウ 猿まね エ 虎の巻 オ 鷹の爪

平成二十一年度

東京都市大学付属中学校 (第三回)

入学試験問題

国語
七の三

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

問五 次の文は、もともと本文中にありました。どの文の後に入れるのが最もよいですか。その文のはじめとおわりの五字をそれぞれぬき出しなさい。(句読点をふくむ)

しかし、体操選手のような専門家にとっては、倒立で三十メートル歩くことよりも、倒立で三十秒ピッタリ静止することの方がはるかに難しい。

問六 一線①「文字通りの『()』とありますが、この()には、最も大切な部分、中心という意味を表す漢字が入ります。それは何ですか。漢字二字で答えなさい。

問七 一線②「日本人が固有に蓄積してきた身体技法」とありますが、それはどのような身のこなしのことですか。そのことが述べられている部分を本文中から十五字以内でぬき出しなさい。

問八 この文章でいう「自然体」とは、どのような意味で使われていますか。その説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本でも欧米でも周囲の自然と一体となるような姿勢
- イ 運動や芸事をするのに人間が生まれつきもっている姿勢
- ウ 専門技術を追い求める規則的な動きをともなった姿勢
- エ 自由に身体を動かそうとする意志にしたがった姿勢
- オ 訓練により身につけることができる理にかなった姿勢

問九 次の具体例のうち、作者の考えに**合わないもの**はどれですか。次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア バレエダンサーや雅楽の舞楽で舞う舞人も、フィギュアスケートの選手の演技にしても、稽古や練習によって洗練された姿勢には通じるものがある。
- イ 卓球の福原愛は、バランスボールの上で正坐をして打つ。正坐バランスボール打法の練習をとりいれているが、それは自然体で打球をとらえられる。
- ウ およそ日本のデザインは、キモノの着付けやら畳の寸法、建築物のスケールから食事の作法にいたるまで、「坐」と切り離して語るができない。
- エ 野球のイチローが見せる一連のストレッチのなかで、もともと印象的なのが、バットボックスに入る前に行うリラックスするための独特な姿勢だ。
- オ 柔術や弓術の日本の武者たちは、筋肉による力をできる限り抑制して、骨格の自然な構造に基づいて動作することを重要視していたと考えられる。

問十 この文章で作者は、自分自身の体操の経験から何を述べようとしてしていますか。六十字以内にもまとめて答えなさい。(句読点をふくむ)

問題は【二】に続きます。

平成二十一年度

東京都市大学付属中学校 (第三回)

入学試験問題

国語
七の四

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

【二】次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

農夫

辻仁成

僕は農夫

僕は僕にしか見えない森を持っていて

そこには言葉がなっている

僕はそれを思い立つたら

もぎり

① 籠に入れては街へおろる

A それは

僕の空腹を満たしてくれる

お腹が空くと

また森の言葉をもぎりに出掛ける

僕は農夫だ 種を蒔く

僕は僕にしか見えない種を持っていて

それは育つ予感ではち切れんばかり

僕は② それを時々

きみの

忙しそうなポケットに忍ばせる

A それは

再会するころには育っていて

きみのポケットから③ にまぎにまぎと

広がる枝葉に 新しい言葉を実らせる

新鮮なうちに

仲良くたべようではないか

(『辻仁成詩集』より)

問一 この詩の種類(文体・形式)を漢字五字で書きなさい。

問二 この詩を作者は三つのまとまりに分けています。これについて、次の問いに答えなさい。

(1) それぞれのまとまりを何といいますか、漢字一字で答えなさい。

(2) 二つ目のまとまり、三つ目のまとまりのはしまりはどこからですか。それぞれはしまりの一行をぬき出さなさい。

問三 ——線①「籠に入れては街へおろる」という表現にこめられた作者の思いとして、最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A 自分のほしいものを買いたい。

イ 自分の友達を探したい。

ウ 自分の考えや、気持ちを人々に伝えたい。

エ 自分の商品を売りに行きたい。

平成二十一年度

東京都市大学付属中学校 (第三回)

入学試験問題

国語
七の五

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

問四 空らん A には同じ接続語が入ります。あてはまることばとして、最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア また イ すると ウ すなわち エ たえば オ ときに

問五 ー線②「それ」は何を指していますか。答えとなる部分を詩の中からぬき出しなさい。

問六 ー線③「にまきによき」について、次の問いに答えなさい。

(1) 「にまきによき」のような言葉を何といいますが。次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬態語 イ 擬声語 ウ 付属語 エ 複合語

(2) 「にまきによき」と同じような働きをする言葉をふくむ文として、最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雷がころころと鳴る。

イ 羽がふわふわと飛ぶ。

ウ 雨がますます強くなる。

エ 犬がわんわんと吠える。

問七 この詩の中の「僕」についての説明として、最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「僕」は、自然の中で作物を作り、育てる喜びを大切にしている人で、その生活に満足している。

イ 「僕」は、言葉を大切にしている人で、言葉によって多くの人たちと気持ちを通わせたいと思っている。

ウ 「僕」は、自然の中で暮らしている人で、多くの人々に自然の中で暮らす喜びを伝えようとしている。

エ 「僕」は、貧しく孤独な生活をする人で、人に尽くすことでたくさんの友達を作りたいと考えている。

問題は【三】に続きます。

(注意) 解答はすべて解答用紙に書きなさい。

【三】 次の□の中の漢字は、「……」「——」「——」の表す、ある規則に従って上から並んでいます。例の1から3を参考に
して、後の①から⑤の空らん□1}□10にあてはまる漢字を書きなさい。ただし、答えとなる漢字は、□内の——線をつけ
たものをすべて一度ずつ使うものとします。

例

| | | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|---|---------------------------------|
| 1 | 森 | …… | 林 | …… | A | —— | 枚 | —— | B | 〈答〉 A 〓 木 B 〓 教 |
| 2 | 寸 | —— | C | —— | 時 | —— | D | —— | 景 | 〈答〉 C 〓 寺 D 〓 暗 |
| 3 | 水 | —— | E | —— | 清 | —— | 情 | …… | F | 〈答〉 E 〓 注 (ㇿ 〓 水) F 〓 心 (ㇿ 〓 心) |

チユウ意・大ボク・シ院・関シ・明シ・キョウ育

① □1 — 板 — 坂 — □2 …… 示

② □折 — □3 — 誓 — □4 — 卒

③ □例 …… □列 — □5 …… 衣 — □6

④ □知 — □7 — □8 — 順 …… □川

⑤ □科 — □料 — □9 — □10 — □集

最シヨ・先トウ・長列シ・表リ・会ケリ
シシ歩・シヤ長・外路・キヨ動・シ格

入学試験問題

解答用紙

[]

(二)

| | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|
| 問一 | a | b | c | d | e |
|----|---|---|---|---|---|

| | | | |
|----|------|------|----|
| 問二 | 第二段落 | 第三段落 | 問三 |
|----|------|------|----|

| | |
|----|----|
| 問四 | 問五 |
|----|----|

| | |
|----|----|
| 問六 | 問七 |
|----|----|

| | |
|----|----|
| 問八 | 問九 |
|----|----|

| |
|----|
| 問十 |
|----|

[]

(三)

| |
|----|
| 問一 |
|----|

| |
|--------|
| 問二 (1) |
|--------|

| |
|---------|
| (2) 二つ目 |
|---------|

| |
|-----|
| 三つ目 |
|-----|

| | | |
|----|----|----|
| 問三 | 問四 | 問五 |
|----|----|----|

| | | |
|--------|-----|----|
| 問六 (1) | (2) | 問七 |
|--------|-----|----|

[]

(三)

| | | | | |
|---|---|---|---|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |

| |
|------|
| 受験番号 |
|------|

| |
|----|
| 得点 |
|----|